

ナス科 ナス属

クコ (枸杞)

Lycium chinense Mill.

自生環境

河川敷、水辺 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

数も多く、ちぎれた枝や根からも簡単に復活するほど生命力の強い植物です。刺はきついのですが、目の敵にはせず、地域の植生の一部としてやさしく見守りたいところです。

特徴

- ☆ 川べりや海岸に多く、野田市内では河川敷に行くとはほぼ間違いなく見ることができます。1～2m 程度の高さになる落葉低木で、枝に鋭い刺がたくさんあります。
- ☆ クコが一面びっしりと生え、植生の中心となっているような環境を「クコ群落」と言い、クコ群落は河川敷を代表する植生環境のひとつになっています。
- ☆ 花が咲きはじめるのは7月頃からで、以降霜が降りる頃まで次々と開花します。果実は夏の終わりごろから赤く熟しはじめ、秋以降は、花と果実が同時に観察できるような状態となります。花は紫色ですが、次第に黄色っぽくなります。

市内の分布状況

河川敷に多く生えます。それ以外の場所には少ないのですが、たまに水辺で見かけることがあります。



クコも立派な果樹

中華粥や杏仁豆腐などに入っている赤い「枸杞の実」は、クコの果実を乾燥させたものです。クコは河原で繁茂するトゲトゲの雑木というイメージがあるかもしれませんが、その果実は栄養たっぷりで、薬膳料理には欠かせない「大切な食材」でもあります。冒頭の料理のトッピング以外にも、ドライフルーツや果実酒、生薬としても利用されています。

花は終わりが近づくと、紫色から黄色になる



葉の縁はギザギザしない



果実は赤く熟し、枝からぶら下がるようにつく

枝には鋭い刺がある



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

